

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第3号

2004年9月30日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 眞正



2004年7月17日 夏の宴「吉野初枝さんのとーかちお祝い」

「おきなわご沖縄語を話す会」 はな かい月に二回集まちち たけーんあちてぬ勉強会、びんちよーかい品川ぬ大崎をしながわ あーさきて

・ふる広みらな「しまくとば」-----金城良吉

・ちむ なだやし な肝ん灘安く成くとばいる言葉-----座覇光子

・たましえ うちなー魂一沖繩人ちゅ さん(3)-----新垣清松

・どし ぞんじ同土ぬ恩義-----國吉 徹

・うとすい てがみ御年寄ぬ手紙-----國吉（眞）

・じむきょく事務局から

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

広がる「しまくとば」

金城良吉（中頭郡西原町）

去る8月15日、浦添をて「沖縄方言普及協

議会」ぬ揃一ぬあいびたん。揃一ぬ御話ぬ中から

「しまくとば」広み一る事にち一て御話うんぬきや
びら。

揃一ぬ御話ぬ中んかい「しまくとばぬ日」定み
一る事ど「ふるみらなしまくとば」んで言うバッジ作
ゆんでぬ事ぬあいび一たん。

くれ一、「しまくとばぬ日」定みて沖繩んかい広み一
る事にゆつて、子孫ぬ達んかい沖繩口残さんね一
成らんでぬ事からやいび一ん。

くぬ揃一をて、「しまくとば」んで言う言葉使一に
ち一て一杯吟味さびたん。「沖繩口」んで言う言葉一
平生から良一使いる言葉やいび一くと、「沖繩口」ど
ま
益しやえ一さにんで言う考一、うりから「沖繩口」
んで言び一ね一、宮古、八重山一入りららんえ一さに
んでぬ考一どか、また「しまくとば」ぬ「しま」ん
で言う言葉一離島ぬ島ぬ肝合やあらん、字々ぬ肝
合どやるんでぬ考一んで一色々あいび一たん。琉歌
ぬ中から「思ゆらば里前 島どめでいもり 島や中
城 花ぬ伊舎堂」読むる御方んめんしえ一び一たん。
やいび一くと、沖繩んじ使いる言葉一何が益しやら、
揃一をて決み一る事一成いびらんたしが、先じえ一
「しまくとば」んで言う言葉沖繩んじ使いる如成い

びたん。御衆様、い一考一ぬあいび一ね一習一ち御
たび
賜みしえ一びり。

くりっし御無礼さびら。「沖縄語を話す会」ぬ華一ち
い
行ちゆる如願と一いび一ん。



シンボルバッジ

県民に親しまれている左御紋（王家の紋章）を参考に
デザインしました。
左御紋の色は真・善・美・聖に基づいて色分けしまし
た。

- 赤 = 真（人間性） 黄 = 善（思いやり）
- 青 = 美（優美） 白 = 聖（統合性）

沖縄方言普及協議会発行「ふるみらなしまくとば」キャンペ
ーンの要旨から載せました。

*****~*****

沖繩字（ん、そ、と、ふい・・・）にち一て一、終わ
いぬページ見ち御賜みしえ一びり。

沖繩字ぬ読み方一大切なくとやいび一くと、終わい
ぬページ見じゃがち一、なるびち声出じゃち読む御
たび
賜みしえ一びり。

読み慣り一ね一便利な物やいび一くと、くぬ号ん続
きて読む御賜みしえ一びり。

肝^{ちむ}ん灘^{なだやし}安^なく成^ないる言葉^{くどば} 座^ざ覇^は光^{こう}子^し (川^{かわ}崎^{さき}市^し)

我^わんが沖^{うちな}縄^{くちなら}口^{くち}習^ぶい欲^{うむ}さんで思^しやびたしえー、引^ひっ
掛^からん如^{ごと}っし沖^{うちな}縄^{くちなら}口^{くち}さーに御^う話^{はなし}っし見^みじ欲^ぶさくど
やいびーん。我^わんねー聞^きちゆしえーいーくる成^ないびー
しが、御^う話^{はなし}すしえー難^むかさいびーん。

くぬ頃^{くる}ん、言^{くどば}葉^ん乱^んりて、うりから肝^{ちむ}んふが^ん
流^な行^とる言^{くどば}葉^んぬ出^でじて、あ^んすか^いー心^{くちえ}地^いーあ^いびら
ん。うれー、我^わん一^{ちゆえ}人^あら^んで思^{うむ}とーいびーん。

くぬ「沖^{おきな}縄^な語^ごを話^{はな}す会^{かい}」んか^い入^いっち、よーんな
どやいびーしが、御^う年^{とし}寄^{すい}んか^いいぬ敬^{うやめ}ー言^{くどば}葉^{なら}習^ぬて何^なが
やら、やーやーと成^なて肝^{ちむ}ん灘^{なだやし}安^なく成^ないびーん。

此^{くね}間^だんし、何^ぬんちが^やら大^や和^まん人^{ちゆ}ま^とでん沖^{うちな}縄^うぬ御^う
年^{とし}寄^{すい}んか^い「を^じー」「を^ばー」んで^ゆち呼^ひどーいびー
しが、良^ゆー考^{かんげ}ーいねー「や^しや^しど、あ^いねー言^いちえ
ー取^とらさんけー」んで^{うむ}思^しとーいびーん。

あ^んしーねー、「心^{くくる}入^いりっし呼^ゆどーいびーん」んで^ゆ言^い
びーん。

沖^{うちな}縄^うぬ御^う年^{とし}寄^{すい}ぬ^{ちや}達^{ちや}や「如^{ちや}何^{ちや}ーるあ^{ちや}わりっしくま^{ちや}ま^{ちや}で
い^い生^ちち来^ちやが」んで^{うむ}思^しいねー、我^わんねーじょーや「を
じー」「を^ばー」んで^い言^いゆーさ^いびらん。

我^わんねー、一^{いっ}杯^ぱ敬^{やま}て呼^ゆてう^ゆさぎー欲^ぶさいびーしが、
御^く衆^す様^よや如^{ちや}何^{ちや}ぬ風^ふ儀^ぎーぬ御^う考^{かんげ}ーや^やみしえーびーが
やー。

我^わんねー解^{わか}らん事^{くど}ぬ多^うさんで^{うむ}思^しとーいびーしが、
一^{いち}番^{ばん}好^{こう}ちゆる言^{くどば}葉^なか^かい「肝^{ちむ}苦^くさん」んで^い言^いしがあ

いびーん。我^わん考^{かんげ}ーど^どやいびーしが、くぬ言^{くどば}葉^{ちむ}ぬ肝^{ちむ}
合^えや人^{ちゆ}ぬ肝^{ちむ}病^やみーねー、ちやーま^まじゆーんさーに
心^し配^わしーがちー、うぬ病^やむし^わ分^わきーんで^い言^いる肝^{ちむ}心^{くくる}ぬ
あ^んで^{うむ}思^しとーいびーん。

くぬ頃^{くる}んし、「美^{ちゆ}ら島^{しま}」「美^{ちゆ}ら海^{うみ}」んで^かち書^かちえー
し見^みじやびーしが、うれー、「美^{ちゆ}ら」ーあ^あらん「清^{ちゆ}ら」
どやるんで^{うむ}思^しとーいびーしが、如^{ちや}何^ふぬ風^ふ儀^ぎーやいび
ーがやー。

「美^{ちゆ}らさん」んで^い言^いしえー形^{かたち}ど^どか見^みーゆる姿^{しがた}ど^ど覚^あ
ん出^でじゃさびーしが、「清^{ちゆ}らさん」んで^い言^いしえー、心^{くくる}ぬ
な^なか^から^ん出^でじて来^きゆーる様^{よう}子^し覚^あ出^でじゃさびーん。

我^わんねー、「美^{ちゆ}らさん」や^かー「清^{ちゆ}らさん」ぬど^{いっ}杯^ぱ
ゆ^あー当^あたゆんで^{うむ}思^しとーいびーん。

今^なま^まで^わ我^わんねー解^{わか}いびらんた^たしが、沖^{うちな}縄^{くちなら}口^{くち}習^ぶて、
うぬ言^{くどば}葉^{ぢけ}遣^うーから沖^{うちな}縄^{くちなら}人^{ちゆ}ぬ肝^{ちむ}清^{ちゆ}らく^い生^ちち来^ちやる
事^{くど}ん解^{わか}て来^きやーびたん。

く^くりから^らん、沖^{うちな}縄^{くちなら}口^{くち}習^ぶいがちー、新^みく^くに^み見^みー出^でじゃ
ち^ちやし味^{あじ}系^{けい}ーっし行^いちゆし嬉^{うっ}さ^{ふく}誇^こらさそーいびーん。



にほんこくみん どっし立身する為に、はまで 標準語
 覚
 て、あんし上ぬ学校ん出じて、ばー会社んかい入っ
 ち、ばー仕事ん終わて、な、うみなーく成とーいび
 ーん。
 やいびーしが、何がな肝ぬどーきらん事ぬあいび
 ーん。今まで沖繩口使いる事ぬ無ーらん大和をてぬ
 くら
 暮しやいびーくと、うりが肝がかいやいびーてーさ。
 まぶい落どちやる如どあいびーる。

にじゅうごにんめー くと
 二十五年前ぬ事やいびーしが、会社ぬ仕事ぬ為に
 インドネシアんて言う国んかい行ちやびたん。
 あまをてー、インドネシアぬ言葉、アメリカぬ言葉、
 あんし大和口ど使いびーくと、何がな肝ぬ所ん無ー
 ん
 一人暮しやいびーたん。

うちなー ゆ どの おか いっぽんまつ
 沖繩んかい寄たる時に「丘の一本松」んて言う沖
 なーしばい ろくおん
 縄芝居ぬ録音テープ買て、インドネシアんかい戻て
 ぬ
 胸ぬくちやをて、うり聞ち毎夜胸一人笑ーさびたん。

ちやたん かんじゃーやー おーぎ み ことろー
 北谷ぬ鍛冶屋や大宜味小太郎やいびーしが、うぬ
 ちやたんくとば
 北谷言葉んあながちさぬ、また本部ん人ぬ年寄ー
 きたしますみこ
 北島角子やいびーしが、うぬ本部言葉やてん沖繩覚
 出じゃち肝ふじゆる毎日やいびーたん。あんさくと、
 してー うちなーくち うびん
 次第に沖繩口ん覚出じゃち肝あしがちん直とーいび
 ーさ。



わ どーきゅーしー しし
 我んねー同級生んかい勸みらつて沖繩口習いる
 くと
 如成いびたん。

どーきゅーしー すり
 同級生ぬ揃ーをて沖繩口っし話そーいびーたし
 が、何んてが言ちよーら解いびらんたくと、O君
 かい「何んて言ちよーが」んち問て見じゃびたる事ぬ
 あいびーん。
 あんしーねー、「何が、ばーや此間んいぬ事問とーた
 んどーやー」んて言らつたる事ぬあいびーん。

ぬー うちなーくち わし
 「何が、沖繩口けー忘たが」んてち 厳さる目口そ
 ーいびーたん。

あんしからうぬ後、U君から何んてちえー無ーん
 こくりつこくごけんきゅーしよ
 国立国語研究所から出じとーる「沖繩語辞典」ぬ送
 ち
 らつて来よーいびーたん。

うちなーくちえ わし な
 「沖繩口ー忘てー成らんどーやー」んてち、かんし
 どし ちむいり
 同土ぬ肝煎っし送て取らちえーさやーんて思て一杯
 うつ
 嬉さいびーん。

やいびーくと、わじゃわじゃ辞典まで送て取らちえー
 ち
 るむんてち沖繩口勉強そーいびーん。

くねーだ うちなー
 此間ー、沖繩んかい行じやいねー、あーかぬ達ぬ

すり ばす くえーさちえ
 揃とーる場所をて御挨拶ー、沖繩口っししーわどや
 うむ かびん
 っさーんて思て、紙小んかい書ち、気掛きて覚て挨拶
 さびたん。



しよわ にじゅうろくにん くと わ
昭和二十六年まんぐるぬ事やいびーしが、我ん
ちゅーがくいちにんしーな
ねー中学一年生成とーいびーたん。

くちんだ いなか じー ゆ
うんにーねー、東風平ぬ田舎をて一字や読みゆーさん

うとすえ まん さいこく
御年寄ー満どーいびーたん。うぬ御年寄んかい外国

んかい行じょーる子ん ちやー てがみ うく ち
んかい行じょーる子ん 達 から手紙ぬ送らつて来ー

ねー、読でうさぎーしえー我んたましやいびーたん。

うとすい てがみゆ
あまくまぬ御年寄ぬ手紙読でうさぎやびたん。

なま ゆー かんげ くと くじゅー
今ぬ世んじえー考ーららん事やいびーしが、五十

にんあま めー くと
年余い前ぬ事どやいびーる。

うとすい ちやー ちよーてー ちやー まー
御年寄ぬ子ん 達 ちか兄 弟ん 達 や何処ぬちねーん、

てーげーちゅい たえ
大概一人、二人ーハワイ、ブラジル、アルゼンチン、

ペルーんかい行じょーいびーたん。

てがめ やまとぐち か ゆ
手紙ー大和口っしど書ちえーいびーる。うぬまま読で

ち わか うちなーぐち のー
聞かさびーねー、解いびらんくと沖繩口んかい直ち

うさぎらんねー成いびらんたん。

わ おーいたけん けー くにん な
我んねー大分県から帰て五年びけーん成とーいびー

てーくと、ふーじーちか くとば てーげーい はん
てーくと、平生使いる言葉ー大概言ちやい反ちやい

な てがみうちなーぐち のー
成いびーたしが、くぬ手紙沖繩口んかい直すしえー、

ちゅゑーむんやいびーたん。

なまかんげ わらび うちなーぐち じん
今考ーいねー、童そーいから沖繩口とー縁ぬ

ちむえー てん わか
あてーる肝合やいびーさ。天からがやら解いびらん

しが、「やーや沖繩口習り」んて言つとーんねーさび

ーん。

第二号の発行の際は大変貴重な原稿をいただき、本当に有難うございました。

今回も大変いい内容の原稿をいただき、おかげさまで第三号を発行する事が出来ました。感謝申し上げます。

第二号では那覇市在住の伊佐トミ子さんから貴重な原稿をいただきましたが、今回も沖縄から貴重な原稿を寄稿していただきました。

今回の第三号は西原町で活躍されている金城良吉さんからいただきました。

金城さんは2002年10月に石川県で開催された全国生涯学習フェスティバルで初めてお会いした方です。野村流古典音楽保存会師範であり、うちなーぐち指導講師もされ幅広く活動されております。

沖縄では「ふるみらなしまくとば」キャンペーンを始めたようで、文面から、色々議論があったことが良く伝えられております。これから貴重な「しまくとば」が広がっていくよう願っております。

会報は沖縄文字を使って編集しておりますが、読むのは慣れましたでしょうか。特に発音には注意して文字を使っておりますので、正しく発音出来るものと思います。

最近沖縄へ行って気づく事ですが、奇妙な発音に出会うことがありました。例えば「縁切ゆん」のことを「いんちゆん(犬切ゆん)」と発音するようです。縁を切りたいのに犬を切るとは大変ですよ。

最後のページにある沖縄文字一覧と用例にありますように縁は「iN」で犬は「?iN」ですね。

この会報では縁は(いん)で犬は(いん)と言う具合に発音を正しく区別するためにそれぞれ異なる文字を使っております。

正しい発音に近づくため、声を出して読まれるようにお勧めしております。

今後もたくさんの方の原稿をお待ちしております。沖縄文字に慣れるまでは、沖縄文字への変換は事務局で行ないます。また原稿は趣旨を変えないで手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ

事務局 國吉 眞正 電話044-988-8065

FAX044-988-8065

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp

第三号

語句の説明（中縄語辞典、広辞苑による）

^{すり}揃一：集まり。集会。

うんぬきゆん：申し上げる。

いー^{かんげ}考一：良い考え。

なるびち：なるべく。

いーくる：おおよそ。大かた。大体。たいてい。

^{ちむ}肝んふがん：満足しない。

あんすか：それほど。さほど。

よーんなー：ゆっくり。

^{ぬー}何がやら：何が何だか。

やーやーと^な成ゆん：静まる。また、ほっと安心する。

^{ちむ}肝ん^{なだやし}灘^な安く成ゆん：心もおだやかになる。

^{ぬー}何んちがやら：どうしてか。

やしやしと：やすやすと。容易に。

^{くくるい}心入り：好意。親切。

^{ちゃ}如何一るあわり：どんなつらいこと。どんな苦勞。

じょーや：とても。とうてい。

うさぎゆん：さし上げる。

^{ちゃ}如何^{ふーじ}ぬ風儀：どのように。

^{ちむえー}肝合：意味。わけ。理由。

^{ちむ}肝病むん：心を痛める。

ちゃーまじゆーん：いつも一緒（に）。

^{ちむちゆ}肝清らさん：心がやさしい。恵み深い。

^{うっ}嬉^{ふく}さ誇らさ：うれしく喜ばしいこと。非常なうれしさ。

はまゆん：励む。没頭する。

うみなーく：安心したさま。心配がなくなったさま。

^{ちむ}肝ぬどーきらん：心が解けない。釈然としない。

^{ちむ}肝がかい：心掛かり。気掛かり。

まぶい：魂。靈魂。

^{ちむ}肝^{とくる}ぬ^ね所ん無一ん：心の居所がない。心配などで心が

落ち着かない。

くちゃ：若夫婦が寢室として使う部屋。

あながちさん：なつかしい。

^{ちむ}肝^{めーにち}ふじゆる毎日：満足する毎日。

^{ちむ}肝あしがち：心がいらだつこと。

^{ちびっ}厳さん：きびしい。厳格である。

^{みーくち}目口：表情。顔つき。

^{ぬー}何ん^えぢえ^ね無一ん：何ということはない。何と言う理由はない。

^{ちむい}肝煎り：好意。親切。

^{えー}か：親戚。親類。

^ち氣^が掛きゆん：精出す。励む。

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

うんにーに：そのおりに。その時に。

^ゆ読^うさぎーん：読んでさし上げる。

たまし：銘銘の分。持ち分。

あまくま：あちこち。あちらこちら。

ちねー：家庭。家族。

^い言^{はん}ちやい反ちやい：言ったり答えたりすること。

ちゆ^{えー}むん：大変なもの。えらいもの。

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu] 　とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [tu] 　とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [tu] 　とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [tu] 　とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)
と [to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	と [to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	と [to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	と [to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)
ど [du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)	ど [du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)	ど [du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)	ど [du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)
ど [do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	ど [do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	ど [do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	ど [do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)
と [ti] 　とーち(一つ) とーだ(太陽) とん(空)	と [ti] 　とーち(一つ) とーだ(太陽) とん(空)	と [ti] 　とーち(一つ) とーだ(太陽) とん(空)	と [ti] 　とーち(一つ) とーだ(太陽) とん(空)
て [te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)	て [te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)	て [te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)	て [te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)
ど [di] 　ふど(筆) むーどー(喉) どきやー(秀才)	ど [di] 　ふど(筆) むーどー(喉) どきやー(秀才)	ど [di] 　ふど(筆) むーどー(喉) どきやー(秀才)	ど [di] 　ふど(筆) むーどー(喉) どきやー(秀才)
で [de] 　でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	で [de] 　でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	で [de] 　でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	で [de] 　でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)
と [kwa] 　とじ(火事) とっちー(ごちそう)	と [kwa] 　とじ(火事) とっちー(ごちそう)	と [kwa] 　とじ(火事) とっちー(ごちそう)	と [kwa] 　とじ(火事) とっちー(ごちそう)
か [ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	か [ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	か [ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	か [ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)
と [gwa] 　にんとん(念願) とんく(頑固)	と [gwa] 　にんとん(念願) とんく(頑固)	と [gwa] 　にんとん(念願) とんく(頑固)	と [gwa] 　にんとん(念願) とんく(頑固)
が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)
と [kwi] 　とー(声) さつとー(咳) とゆん(呉れる)	と [kwi] 　とー(声) さつとー(咳) とゆん(呉れる)	と [kwi] 　とー(声) さつとー(咳) とゆん(呉れる)	と [kwi] 　とー(声) さつとー(咳) とゆん(呉れる)
き [ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	き [ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	き [ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	き [ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)
と [gwi] 　とーく(越来「地名」)	と [gwi] 　とーく(越来「地名」)	と [gwi] 　とーく(越来「地名」)	と [gwi] 　とーく(越来「地名」)
ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)	ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)	ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)	ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)
と [kwe] 　とー(鍬) からじとー(髪きり虫)	と [kwe] 　とー(鍬) からじとー(髪きり虫)	と [kwe] 　とー(鍬) からじとー(髪きり虫)	と [kwe] 　とー(鍬) からじとー(髪きり虫)
け [ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)	け [ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)	け [ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)	け [ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)
と [gwe] 　とったい(ぬかるみ)	と [gwe] 　とったい(ぬかるみ)	と [gwe] 　とったい(ぬかるみ)	と [gwe] 　とったい(ぬかるみ)
げ [ge] 　げー(害) にげー(願い)	げ [ge] 　げー(害) にげー(願い)	げ [ge] 　げー(害) にげー(願い)	げ [ge] 　げー(害) にげー(願い)
と [hwa] 　とー(葉) なーと (那覇)	と [hwa] 　とー(葉) なーと (那覇)	と [hwa] 　とー(葉) なーと (那覇)	と [hwa] 　とー(葉) なーと (那覇)
は [ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)	は [ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)	は [ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)	は [ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)
と [hwi] 　とじやい(左) とーと(いるか)	と [hwi] 　とじやい(左) とーと(いるか)	と [hwi] 　とじやい(左) とーと(いるか)	と [hwi] 　とじやい(左) とーと(いるか)
ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)
と [hwe] 　とー(南) にとーでーびる(有難うございます)	と [hwe] 　とー(南) にとーでーびる(有難うございます)	と [hwe] 　とー(南) にとーでーびる(有難うございます)	と [hwe] 　とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)	へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)	へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)	へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)
や [ja] * 　やー(君、お前) やん(言わない)	や [ja] * 　やー(君、お前) やん(言わない)	や [ja] * 　やー(君、お前) やん(言わない)	や [ja] * 　やー(君、お前) やん(言わない)
や [ja] 　やー(家) やん(である)	や [ja] 　やー(家) やん(である)	や [ja] 　やー(家) やん(である)	や [ja] 　やー(家) やん(である)
と [ju] * 　とん(言う)	と [ju] * 　とん(言う)	と [ju] * 　とん(言う)	と [ju] * 　とん(言う)
ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)	ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)	ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)	ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)
と [jo] * 　とーいー(おさな子)	と [jo] * 　とーいー(おさな子)	と [jo] * 　とーいー(おさな子)	と [jo] * 　とーいー(おさな子)
よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)	よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)	よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)	よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)
と [wa] * 　とー(豚) とーちち(天気)	と [wa] * 　とー(豚) とーちち(天気)	と [wa] * 　とー(豚) とーちち(天気)	と [wa] * 　とー(豚) とーちち(天気)
わ [wa] 　わーむん(私のもの)	わ [wa] 　わーむん(私のもの)	わ [wa] 　わーむん(私のもの)	わ [wa] 　わーむん(私のもの)
と [wi] * 　とー(上) とーりきさん(面白い)	と [wi] * 　とー(上) とーりきさん(面白い)	と [wi] * 　とー(上) とーりきさん(面白い)	と [wi] * 　とー(上) とーりきさん(面白い)
ゐ [wi] 　ゐきが(男) ゐなく(女)	ゐ [wi] 　ゐきが(男) ゐなく(女)	ゐ [wi] 　ゐきが(男) ゐなく(女)	ゐ [wi] 　ゐきが(男) ゐなく(女)
と [we] * 　とーきー(金持ち) とんちゆ(ねずみ)	と [we] * 　とーきー(金持ち) とんちゆ(ねずみ)	と [we] * 　とーきー(金持ち) とんちゆ(ねずみ)	と [we] * 　とーきー(金持ち) とんちゆ(ねずみ)
ゑ [we] 　ういゑー(お祝) わじゃゑー(災い)	ゑ [we] 　ういゑー(お祝) わじゃゑー(災い)	ゑ [we] 　ういゑー(お祝) わじゃゑー(災い)	ゑ [we] 　ういゑー(お祝) わじゃゑー(災い)
と [N] * 　とみ(梅) とんに(稲) となじ(うなぎ)	と [N] * 　とみ(梅) とんに(稲) となじ(うなぎ)	と [N] * 　とみ(梅) とんに(稲) となじ(うなぎ)	と [N] * 　とみ(梅) とんに(稲) となじ(うなぎ)
ん [N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)	ん [N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)	ん [N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)	ん [N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)
い [i] * 　いん(縁) いだ(枝)	い [i] * 　いん(縁) いだ(枝)	い [i] * 　いん(縁) いだ(枝)	い [i] * 　いん(縁) いだ(枝)
い [i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)	い [i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)	い [i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)	い [i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
と [u] * 　とど(夫) とーじ(さとうきび)	と [u] * 　とど(夫) とーじ(さとうきび)	と [u] * 　とど(夫) とーじ(さとうきび)	と [u] * 　とど(夫) とーじ(さとうきび)
う [u] 　うと(音) うーび(帯)	う [u] 　うと(音) うーび(帯)	う [u] 　うと(音) うーび(帯)	う [u] 　うと(音) うーび(帯)
と [e] * 　とーま(八重山) とーじ(八重洲)	と [e] * 　とーま(八重山) とーじ(八重洲)	と [e] * 　とーま(八重山) とーじ(八重洲)	と [e] * 　とーま(八重山) とーじ(八重洲)
え [e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)	え [e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)	え [e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)	え [e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
お [o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)	お [o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)	お [o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)	お [o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)
を [o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)	を [o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)	を [o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)	を [o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 　とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。